令和３年度　春期　情報処理安全確保支援士試験　採点講評

午後Ⅰ試験

問１

問 1 では，認証システムの開発を題材に，OAuth を用いたソーシャルログインシステムの実装，及びそのセキュリティについて出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問 1(2)は，正答率が平均的であった。認証を行う SNS と連携する場合における可用性の観点での欠点を問うたが，SNS と連携しない場合にも該当する欠点について記述した解答が散見された。題意をよく読んで解答してほしい。

設問 1(3)は，正答率が低かった。OAuth がどのように使われているかを問うたが，仕組みを理解していない解答が多かった。OAuth のプロトコルをよく理解しておくとともに，図のシーケンスから仕組みを正確に読み取ることにも注力してほしい。

設問 2(2)は，正答率が低かった。攻撃者が用意したアカウントに利用者が導かれてしまうことを問うたが，利用者のアカウントによって行われると記述した解答が多かった。セキュリティ対策においては攻撃の手口を理解することが必要になるので，シラバスにあるような攻撃の手口を学習してほしい。

問２

問 2 では，ネットワークのセキュリティ対策を題材に，DNS のセキュリティ対策について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問 1(4)は，正答率が低かった。DNS に対する攻撃の仕組みや DNS の仕組みをよく理解してほしい。

設問 1(7)は，正答率が低かった。DNS 通信を暗号化する DNS over TLS は，DNS のセキュリティ対策にとって重要な技術の一つである。この仕組みを学習してほしい。

設問 2(1)は，正答率がやや高かった。DNS サーバをホスティングサービス上に新設した後のシステム構成について正しく理解した上で解答できていたと思われる。

設問 2(3)は，正答率がやや高かったが，j ～ m 全てが正答となる解答は少なかった。ゾーン転送要求に対する許可を必要最小限にするためには，どのようなアクセス制御にすればよいかを，ゾーン情報の流れを理解した上で考えるようにしてほしい。

問３

問 3 では，セキュリティ運用を題材に，脆弱(ぜい)性修正プログラムの，組織に適した配信手順及び関連知識について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問 1 は，正答率がやや高かった。脆弱性修正プログラムを組織内に展開する前にすべきことを正しく理解していたと思われる。

設問 3(3)は，正答率が低かった。WoL の制限事項とその制限に対する解決方法について正しく導き出せていない解答が多かった。セキュリティ対策を講じる中でシステムやネットワークの構成による制限に直面した場合，その制限を解決するためには，要因となる仕組みを理解しておく必要がある。WoL の仕組みを理解するとともに，その仕組みに起因する制限事項についても理解を深めてほしい。

設問 4(2)は，正答率がやや低かった。EDR に着目した解答は多かったが，EDR を利用した上で，どのようにして対策を実現するかを記述した解答は少なかった。セキュリティ運用では，導入済のシステムを最大限に活用することが重要である。EDR など，主要なセキュリティ製品の活用方法を理解してほしい。